

# 美利河小学校 ありがとう



## そして、 さようなら

# 美利河小学校 110年の歴史に幕



在校生によるお別れの言葉

**本**年度をもつて110年という永きにわたり、たくさん卒業生を送り出し、また、地域の方々からも愛されてきた美利河小学校が閉校することとなりました。

閉校にあたり8月5日閉校式およびお別れ会が美利河小学校、町民センターで開催され250名を超える方々が出席しました。

美利河小学校で行われた閉校式では木村英明校長より「美利河小学校は地域の方々を支

えられ続けてきました。とても感謝いたしました。」との式辞がありました。

また、在校生7名によるお別れの言葉では、学校へ感謝の気持ちが強くと述べられました。

式典の最後を締めくくった校歌斉唱はいろいろな世代の卒業生が懐かしさや寂しさを胸に歌い、会場が一つになりました。中には涙ぐむ姿も見られました。

お別れ会では、再会を喜ぶ方や、思い出を語り合う方など、一人一人が美利河小学校で過ごした大切な日々を懐かしんでいました。たとえ、年齢が離れていても、住んで



木村校長による式辞

いるところが違っても、同じ学び舎で過ごした仲間であり、その時間はきつと「美利河小学校」が繋いでくれた最後の「出合い」に違いありません。

**半**年後には美利河小学校から児童たちが未来に向けてそれぞれの場所へ巣立っていきま

す。

美利河小学校で過ごす最後の日まで子供たちは一日一日を噛みしめて送ることと思います。

そして、美利河小学校で過ごした日々がこの日集まった先輩たちと同じように財産として残ることでしょう。



町民センターで行われたお別れ会

# 美利河小学校 沿革の概要



旧校舎の様子



昭和45年頃の運動会



昭和34年の運動会

▲ 子どもたちや地域の方々のいきいきとした様子は昔から変わっていません。

- ・明治35年 美利河マンガン鉱山用工場の家屋1棟を修繕し授業開始。「第6別簡易教育所」と称する。
- ・明治44年 「第6別尋常小学校」と改称する。
- ・大正3年 校舎を新築し移転する。校舎新築費用総工費718円を要したが、地域の寄付360円を充当する。
- ・昭和2年 美利河尋常小学校と改称する。
- ・昭和22年 美利河小学校と改称する。
- ・昭和27年 開校50周年記念式典を行う。
- ・昭和37年 校歌を制定する。
- ・昭和57年 美利河ダム建設にともない校舎を現在地へ移転新築する。
- ・平成2年 山村留學制度を導入する。
- ・平成12年 山村留學10周年記念式典・祝賀会を行う。
- ・平成15年 プリカ旧石器文化会館完成記念式典に児童が参加する。
- ・平成21年 美利河山村留學20周年式典を行う。
- ・平成25年 美利河小学校閉校記念式典・お別れ会を開催する。

児童数 男子 12名  
女子 5名

## 山村留學

― 地域と歩んだ子どもたち ―

かつては、児童数100名を超えた美利河小学校でしたが、マンガン鉱山の閉山や美利河ダム建設に伴い世帯数が大きく減少し、平成元年、4年生の丸山明子さんただ1人となつてしまいました。

しかし、休廃校に追い詰められた学校を救つたのは当時の校長である森田敏さん。故人からの「山村留學制度」導入という提案でした。「地域の灯である学校を守りたい」という強い信念のもとに教諭の森昇さん、保護者の丸山良祐さんなど学校、地域という枠を超え、一丸となつて実現に向け動き出しました。

さらに新聞に掲載を依頼した丸山明子さんによる作文を通じた呼びかけなど、必死の思いが通じ、平成2年、7名の留學生とともに始まることとなりました。

雪がまだ残る4月、美利河小学校では、山村留學歓迎交流会が毎年開かれます。不安と緊張に包まれる留學生たちは、在校生や地域の方々に温かく迎えられ、美利河での新しい生活をスタートさせます。

## 校歌

作詞 宇野 親美  
作曲 渡部日出雄

- 一 カニカンの山はかがやき  
空青く 雲は流れる  
野も山も 緑にもえて  
ああ夢おおき わが学び舎よ
- 二 父母の拓きし道を  
うけつぎて あけくれればむ  
光さす 窓辺によれば  
ああ幸おおき わが学び舎よ
- 三 美利河村 名もうるわしく  
朗らかに 力をあわせ  
たくましく 正しくすすむ  
希望あふれる わが学び舎よ